研究期間
R6～R10

対策と保全にむけて、相手を知る

～大型哺乳類の保護管理にむけた個体特性および個体群構造の解明～

長野県環境保全研究所 自然環境部

人にとって安全な暮らしと健全な野生動物個体群の維持を両立するには 、地域の実情と法律（鳥獣保護法）に基づいた保護管理計画の立案が必要となります。本研究では、対策現場と計画立案の両方に研究成果を提供し、”科学的根拠に基づく被害対策と野生動物の保全”を支援します。

なぜ研究が必要なの？

●現状　人口減少と野生動物の分布拡大により人と獣の距離が近くなり、人の安全な暮らしと健全な野生動物個体群の維持、その両方が脅かされている。

●課題　大型哺乳類との適切なすみ分けを実現し、県内の農林水産業の維持、住民の安全確保及び地域社会の維持を図ることが課題となっている。

●目的　被害の大きな大型哺乳類を対象に、被害軽減と健全な野生動物個体群の維持に資する科学情報を提供すること。クマ、シカ、カモシカ等からの試料採取・分析や行政資料等を用いたデータ解析を行い、その成果を行政計画や対策現場に還元する。



どうやって研究するの？

①野外調査

高山・被害地等で行動や痕跡を記録

直接観察や赤外線カメラで記録

②捕獲個体を分析

サンプル収集し化学分析



報告書から情報を収集

- 捕獲日時
- 被害対象
- 捕獲場所
- 性別や体重

③パソコンで計算

①による野外データ
②による分析データ
行政データ

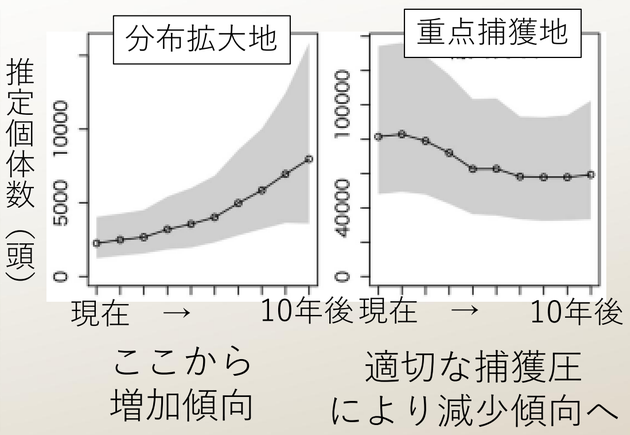


捕獲の影響評価
個体数の増減
個体の食性変化
森林の植生変化

どんなことが分かりそう？

数年先のニホンジカの数

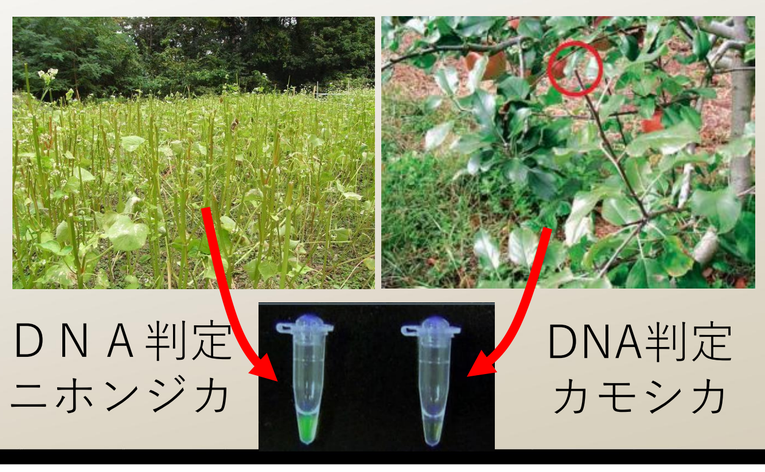




ここから増加傾向

適切な捕獲圧により減少傾向へ

農業被害地における カモシカ被害地の割合



ＤＮＡ判定
ニホンジカ

DNA判定
カモシカ

捕獲下での遺伝的多様性

